

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2018年5月～2019年4月

歴史地震研究会幹事会

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2018年5月～2019年4月)と今後の予定

2018年

- 8月7日(火) 2018年度第1回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月12日(水) 2018年度第2回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月22日(土)～25日(火) 第35回歴史地震研究会(大分県大分市 J:COM ホルトホール大分)
 - 22日 公開講演会
 - 23日 研究発表会, 懇親会
 - 24日 研究発表会, 総会
 - 25日 巡検
- 12月20日(木) 2018年度第3回幹事会(地震予知総合研究振興会)

2019年

- 4月18日(木) 2018年度第4回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 6月7日(金) 2018年度第5回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 8月8日(木) 2018年度第6回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月21日(土)～23日(月) 第36回歴史地震研究会(徳島県徳島市 徳島大学 地域連携プラザ) = 予定

2. 第35回歴史地震研究会 総会議事録

日時:2018年9月24日(月) 11:05～11:45
於:大分市 J:COM ホルトホール大分 302・303 会議室

1. 定足数確認

歴史地震研究会会則第18条により、総会は会員の10分の1の実出席を要すると定められている。現在の会員数310名、本会場内にいる会員数は56名、委任状提出21名で定足数を満たし、総会は成立する。(林能成総務委員長)

2. 松浦律子会長挨拶

3. 議長選出

林能成総務委員長より佐竹健治会員を議長に推薦。佐竹健治会員が議長に選出され、ここからは議長が進行を務める。

4. 佐竹議長挨拶

5. 第一号議案 2017年度事業報告および決算報告

(1) 研究成果発表会等の実施状況について(小松原編集委員長・行事委員)

第34回歴史地震研究会(つくば大会)の開催について、第一号議案1.(1)①により説明。他の学協会が主催する行事を1件後援したことを、第一号議案1.(1)②により説明。

(2) 研究成果発表会の準備状況について(松崎行事委員長)

第35回歴史地震研究会大分大会の開催に向けての準備について、第一号議案1.(1)③により説明。

(3) 会誌の刊行について(小松原編集出版委員長)

『歴史地震』第33号を2018年7月末に発行したことについて、第一号議案1.(2)により説明。

(4) 広報活動について(石辺広報委員長)

第一号議案1.(3)により以下の事項について説明した。歴史地震研究会の独自ドメイン(histeq.jp)を取得し、研究会独自のホームページを立ち上げた。また会員向けにメールでお知らせを送る仕組みを整備した。あわせて歴史地震研究会のホームページ、メーリングリストmushaの管理・運営をし、他学会への大会の告知をした。

(5) 業績の表彰、2017年度のその他の事業について(林能成総務委員長)

北原糸子会員に功績賞を授与することを幹事会で決定し2018年9月24日の総会で授与したことを第一号議案1.(4)により説明。研究会の各事業を行うために付随する活動として、大会中の総会1回と幹事会3回を行ったことを説明。

(6) 2017年度決算報告について(内田財政委員長)

第一号議案2および以下の入退会者数の資料により、2017年度の収入と支出、つくば大会の収入と支出を報告。

歴史地震研究会 2017年度 決算報告

	項目	予算額	決算額	増減	内訳
収入	2018年度納入会費	1,236,000	232,000	▲ 1,004,000	58名×4000
	2017年度以前会費	0	374,000	374,000	85口
	会誌バックナンバー売り上げ	0	4,900	4,900	会誌, 予稿集代
	会誌口絵代	0	0	0	
	銀行利息	0	0	0	
	前年度繰越	1,915,892	1,915,892	0	
	合計	3,151,892	2,526,792	▲ 625,100	

支出	歴史地震33号印刷代	705,000	657,141	▲ 47,859	450部,送料・振込料込
	同編集費	25,000	0	▲ 25,000	
	HP管理費	12,000	12,216	216	振込料216円を含む
	会議費	300,000	53,440	▲ 246,560	
	功績賞関連費	100,000	0	▲ 100,000	
	歴史地震アーカイブ費	50,000	0	▲ 50,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	30,000	19,250	▲ 10,750	
	2017年度つくば大会関係費 ^{*1)}	30,000	▲ 109,203	▲ 139,203	
	2018年度大会関係費	50,000	16,812	▲ 33,188	会場使用料
	2019年度大会関係費	30,000	0	▲ 30,000	
合計	1,332,000	649,656	▲ 682,344		

次年度繰越金	1,819,892	1,877,136	57,244
--------	-----------	-----------	--------

*1): 決算額は、つくば大会収支差額(56,003円)に前年度支出分(53,200円)を加えた額である。

2017年度つくば大会決算明細

	項目	口座	現金	合計	内訳
収入	参加費(会員)		126,000	126,000	1500円×84名
	参加費(非会員)		78,000	78,000	3000円×26名
	懇親会代		288,000	288,000	6000円×48名
	巡検参加費		222,000	222,000	6000円×36名+1名
	講演予稿集		4,720	4,720	1000円×1部、3000円×1部、送料360円×2部
収入合計		0	718,720	718,720	
支出	予稿集印刷費	81,216		81,216	予稿集100部81,000+振込手数料216
	会場使用料		53,200	53,200	2016年度支出済分
	懇親会費	281,750		281,750	飲食代281,318+振込手数料432
	巡検代	116,382	73,745	190,127	食事代53,460円,保険料3,885円、バス代115,950(高速代7,950含む)+振込手数料432、入館料14,400、駐車代2,000
	巡検講師謝金交通費		40,000	40,000	柳澤氏
	文具代		16,424	16,424	名刺ケース2,257、名刺ケース2,376、レーザーポイント8,618、名刺ケース2,376、文具代797
支出計		479,348	183,369	662,717	
収支差額		▲ 479,348	535,351	56,003	

(7) 会計監査報告(中村監査役、植竹監査役)

2017年度収支決算報告の監査を行い、予算の執行、帳簿、証票の整理等、正常かつ適正に処理されていることを確認した。

以上の報告をもとに質疑。

(石橋会員)歴史地震アーカイブ費についての質問。今年度も予算執行0となっているが、現時点での進捗状況について説明して欲しい。

(小松原編集出版委員長)作業をできない時期があったため2018年度に持ち越しになっている。問題がないものから会のホームページに順次掲載していく方針を確認している。

(議長)第一号議案 2017年度事業計画および決算報告 を承認してよいか。

第一号議案 2017年度事業計画および決算報告を拍手で承認。

6. 第二号議案 会長選出

歴史地震研究会会則第16条第1,2項に基づき、幹事会の推薦を得て、現会長である松浦律子氏から歴史地震研究会会長に立候補の届け出があった。以上、報告する。(林能成総務委員長)

(議長)立候補した松浦律子氏を次期会長として選出してよいか。

拍手で承認。松浦律子氏を会長に選出。

7. 第三号議案 監査役選出

監査役の定数は2名。歴史地震研究会会則第16条第3,4項に基づき、幹事会として現監査役である中村操氏および植竹富一氏を次期の監査役に推薦するとの届け出があった。以上、報告する。(林能成総務委員長)

(議長)推薦があった中村操氏と植竹富一氏を監査役として選出してよいか。

拍手で承認。中村操氏と植竹富一氏を監査役に選出。

8. 新会長挨拶と役員指名

次期の松浦律子会長より挨拶。2018年度の役員は、副会長に堀川晴央氏(留任)、幹事は総務委員長に大邑潤三氏(新任)、財政委員長に諸井孝文氏(新任)、広報委員長に加納靖之氏(新任)、行事委員長に馬場俊孝氏(新任)、編集出版委員長に行谷佑一氏(新任)を指名する。各委員会の運営のために必要数の委員を追って指名する。

各新幹事・監査役より挨拶。

9. 四号議案 会則の改正

本部所在地の町名変更(猿楽町から神田猿楽町へ)にともない、会則第4条の事務所住所を変更したい。

(議長)第四号議案 会則の改正を承認してよいか。

第四号議案 会則の改正を全会一致で承認。

10. 第五議案 2018年度事業計画および予算案

(1) 研究成果発表会、その他の事業、予算案

2019年の大会を徳島市で開催する準備を行う。2020年の大会候補地についての調査を進める。その他の事業計画は昨年度と同様である。必要な支出項目を予算として計上した。(諸井財政委員長)

以上の報告をもとに質疑。

(越後会員)2017年度の会計報告を見ると、会費未納者が非常に多い。2018年度の予算にその分の納入を見込まなくて良いのか。

(諸井財政委員長)会費納入は前年度のうちに翌年度分を納めることになっている。会誌と一緒に振込書を同封しており、今年度からは7月末までに納めないと滞納者になってしまう。そのため決算報告では今年度の未納者が多くなる一方、9月以降に会費を納めて当該年度以前の会費として記録される人が多い。なお2018年度は会費納入の呼びかけを積極的に行い未納分会費の回収に努める準備を進めている。

(議長)第五号議案 2018年度事業計画および予算案 を承認してよいか。

第五号議案 2018年度事業計画および予算案 を拍手で承認。

11. 閉会

歴史地震研究会 2018年度 予算案

	項目	予算額	内訳
収入	会費	1,240,000	310名 × 4000円
	口絵代	46,000	2ページ分
	前年度繰越	1,877,136	
	合計	3,163,136	

支出	歴史地震34号印刷費	675,000	(1500円 × 450部, 送料, 諸費用込)
	同編集費	25,000	査読料 + 編集補助謝金
	HP管理・改修費	60,000	
	会議費	300,000	
	功績賞関連費	100,000	
	歴史地震アーカイブ費	50,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	30,000	
	2018年度大分大会関係費	30,000	
	2019年度大会費	100,000	
	2020年度大会費	30,000	
	合計	1,400,000	

次年度繰越金	1,763,136
--------	-----------

3. 幹事会議事録

2018年度 第1回幹事会議事録

日時: 2018年8月7日(火) 17:30~19:30

場所: 地震予知総合研究振興会会議室

出席者: 松浦律子(会長)、堀川晴央(副会長)、林能成、内田篤貴、松崎伸一、石辺岳男(以上、幹事)、植竹富一(以上、監査役)

1. 入退会者の承認

6月12日メール審議により4名(山田昌樹氏、榎原雅治氏、山田隆二氏、上相英之氏)からの入会届けと1名(白石健一氏)の退会届けがあり、それを認めた旨の報告があった。また6月13日以降に1名(高山正久氏)の入会届け、2名(高橋智幸氏、新井健司氏)の退会届けが提出されたとの報告があり承認した。その結果、現在の会員数は309名となった。

2. 2018年大会の準備および参加申し込み状況について

- ・301、302、303 会議室を確保し、7/9 にホール利用計画書を提出済み。
- ・プロジェクターはレンタル、スクリーンは備え付けを使用、マイクは3本確保済み。
- ・会場設営は22日9時から行事委員で準備し、ポスターパネルも含めて設営を終える。
- ・公開講演会の講師手配。当日の司会は松崎行事幹事、開会挨拶は松浦会長、閉会挨拶は堀川副会長。
- ・公開講演会は「歴史と自然を学ぶ会」との共催として、講演会の動画撮影を行う。動画撮影については講師の許可を取得済み。
- ・講演会会場の定員は168人となっており、これを厳守する。
- ・研究会の発表は口頭40件、ポスター18件となった。ポスターは2日間貼りっぱなし。
- ・大会参加費は会員2,000円(「学ぶ会」会員も同額)、非会員4,000円。
- ・予稿集の印刷部数は120部とする。
- ・懇親会(2日目に開催)は会費5,000円(学生割引2,500円)とする。7/31時点で55人申込み。
- ・懇親会の役割分担は次の通りとする。司会進行: 松崎行事幹事、乾杯: 宇佐美先生、閉会挨拶: 松浦会長。2019年大会の幹事である馬場氏が不在のため松浦会長が次年度の案内をする。
- ・巡検は8:30 大分駅出発。柞原八幡宮、関神社、奈多宮などを見学。15:30 大分空港、16:10 JR 杵築駅、17:20 大分駅で解散予定。

- ・大型バス(45人乗り)を予約済み。参加申込者は案内者を含めて8/6時点で42人。
- ・食事は佐賀関の「関あじ関さば館」を手配済み。関の海鮮丼を全員分予約。参加者の中に生魚がダメな人がいるかを確認して対応する。
- ・巡検案内資料はほぼ完成。

3. 2018年功績賞について

前回幹事会以降にメール審議で決定した文案で賞状を制作中。完成したものは総務幹事が大会会場へ持ち込む。

4. 2018年総会の準備状況について

- ・2017年度の決算案が報告・了承された。9月24日の総会で原案通りに会員に報告する。
- ・2017年度つば大会決算案について決算案が了承され、総会で原案通りに会員に報告する。
- ・2018年度の予算案が提示され了承された。総会で会員に提案する
- ・2017年度の入退会者は入会者9名、退会者8名であった。その結果、2018年8月1日時点の会員数は310名となった旨を総会で報告する。
- ・総会資料の原案が総務幹事から示された。会計関係の資料をPDF化して追加して総会資料をお盆明けまでに完成させる。
- ・8月22日前後に会のホームページで総会資料のPDFファイルを公開するとともに、専用メールアドレスで委任状の受け付けをはじめ。
- ・委任状は9月5日前後に締め切り、次の幹事会でとりまとめを行い、総会で委任状による賛否分を合算するための準備を行う。

5. 「歴史地震」の編集について

- ・歴史地震33号を7月末に発行・送付済み。
- ・カラーページ代の請求は財政幹事が行う。
- ・中学生による資料区分のページ超過については、歴史地震学の教育普及的立場からページ超過分の請求を行わない。
- ・歴史地震34号には論説4編が寄稿され、査読等の作業を進めている。
- ・PDF組版の外注については費用対効果などを次期編集委員会で検討し、解決策を模索する。

6. ホームページの更新等について

- ・さくらインターネット・スタンダードプランでサーバをレンタル、会の独自ドメイン histeq.jp を取得して、静岡大学サーバから移転した。
- ・会員向けお知らせメールリストを作成した。
- ・幹事会メールリストを作成した。
- ・ホームページの更新、メールリストのメンバー追加を行い、迅速な情報の提供に努めた。

7. 2019年大会について

9/21(土)～9/23(月)、会場は徳島市徳島大学地域連携プラザとして総会に提案することに決定。

8. 次期幹事候補などについて

任期が長くなっている幹事について、次期候補者を検討し、担当者が打診することを決定した。

9. その他

次回幹事会の日程

2018年9月10、12、13日のいずれかで開催する。

2018年度 第2回幹事会議事録

日時:2018年9月12日(水)17:00～19:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:松浦律子(会長)、堀川晴央(副会長)、林能成、内田篤貴、松崎伸一、石辺岳男(以上、幹事)、植竹富一(以上、監査役)

オブザーバー: 馬場俊孝、行谷佑一(次期幹事予定者)

1. 入退会者の承認

前回の幹事会以降に1名(富士沙織氏)の入会届け、2名(末峯章氏、原田玲氏)の退会届けが提出されたとの報告があり承認した。その結果、現在の会員数は310名となった。

2. 総会の準備状況

9月5日に締め切りだった委任状は21人分(代理人議長:19人、会長:2人)であった。この分を総会決議に追加する。当日用の総会資料を出席予定者分より若干大目に印刷して、事前に会場へ送付しておく。また功績賞表彰式を総会前に行うことが確認された。

功績賞の賞状は完成。総務幹事が会場まで持参する。

3. 次期幹事候補者の選出

これまでに決定していた行事、広報の次期幹事に加えて、総務、財政、広報についても次期幹事候補者から内諾を得た。今後、総会までの間に各委員会の委員を確定する。

4. 2018年大分大会の準備状況

- ・9/12時点での参加予定者は研究発表会 83人、懇親会 58人、巡検 42人。
- ・9/22の行事委員集合時間は現地組が9:00、東京・つくば組が13:00。
- ・大会グッズは現在つくば(産総研)にあるため、9/22AM着で送付手配する。また総会終了後は次の開催地の担当者(徳島大・馬場)へ送付する。
- ・会場周辺のランチマップを用意済み。
- ・巡検案内資料、講演要旨集は印刷済み。

5. 2019年徳島大会の実施計画

2019年9月21日(土)～23日(月)の日程、会場は徳島大学常三島キャンパス。

- 1日目 午前研究会、午後公開講演会
- 2日目 午前研究会・午後研究会および総会・夜懇親会
- 3日目 午前研究会・午後巡検

という時間割を基本に準備をすすめることとなった。

6. 「歴史地震」の編集について

- ・歴史地震34号には論説4編が寄稿され、査読等の作業を進めている。
- ・33号の電子版を12月にホームページに掲載する。カラー白黒などの条件を吟味して松浦会長がPDFファイルを作成し、編集出版委員長が集約。広報委員長が掲載手続きを進める。
- ・17号までの著作権問題については、引き続き小松原編集出版委員が対応する。
- ・著者の住所を掲載しているが個人情報保護の観点にたち、次号から修正する。次期編集出版委員会で詳細をつめるが、歴史地震分野の特性を踏まえて著者の都道府県市町村までは掲載する方向で検討する。

7. ホームページの更新等について

- ・総会資料をホームページに掲載し、委任状を電子メール・郵送で受け付けた。
- ・大会の開催情報などホームページの更新を行い、迅速な情報の提供に努めた。

8. その他

次回幹事会の日程

2018年11月に行う。総会以降に新総務幹事が日程調整を行えるよう、現総務幹事が引き継ぎする。

2018年度 第3回幹事会議事録

日時:2018年12月20日(木)17:00～

場所:地震予知総合研究振興会小会議室

出席者:松浦(会長)、堀川(副会長)、諸井(財政)、馬場(行事)、松崎(旧行事)、加納(広報)、行谷(編集出版)、中村(監査)、植竹(監査)、内田(旧財政)、石辺(旧広報)、小松原(行事・編集)、大邑(総務)書記

1. 役員および委員名簿の確認(総務)

【資料1】歴史地震研究会役員および委員名簿

当人の希望があれば旧姓を記載

2. 入退会者の承認(財政)

【資料2】2018年歴史地震研究会第3回幹事会資料(内容:大会決算明細、入会退会書類一式)

2018年9月13日現在 新入会員1名(津田健一氏) 退会者0名 現会員数310名

ただし年度末に2名(川崎一朗氏・河本尋子氏)が退会の予定

入会者について承認

3. 2018年大会のまとめ(旧行事・財政)

【資料3】歴史地震研究会 行事委員会報告(大分大会報告)

(内容:収支報告、大会決算明細、シンポジウム概要および新聞記事、チラシ見本)

① 大会概要

公開講演会:9月22日 J:COM ホルトホール大分にて開催 参加者165名

研究発表会:23~24日 会場同上 参加者 92名 (会員 71, 学ぶ会 2, 非会員 18, 招待 1)
発表件数:口頭発表 40件, ポスター18件
懇親会:23日 ホルトガーデン 参加者 60名 挨拶・スピーチ
巡検:25日 参加者 40名 ほぼ予定取り実施

- ✓ 大分市・大分市教育委員会に事業実施報告(述べ385人参加)を提出
- ✓ 参加記2件を依頼し11月末に原稿受領
- ✓ 公開講演会の動画を11/19に限定公開 字幕などの訂正後公開の予定

② 収支報告 【資料2・3】(大会決算明細より)

収入合計 694,000円 支出合計 630,401円 収支差額 63,599円 (近年は黒字化)
参加費(会員)は71名分 142,000円(招待者を除く)
参加費(非会員)のうち会費2000円は中学生2名と学ぶ会2名 計4名
巡検参加費195,000円には案内者分は含まれない(案内者からは徴収せず).
※巡検案内者からは巡検参加費は徴収せず, 講演+案内謝金を1万円とした.

③ 歴史と自然を学ぶ会主催シンポジウムについて【報告】

歴史と自然を学ぶ会から後援依頼をうけ, 歴史地震研究会も後援に入り下記シンポジウムを開催
「11月5日世界津波の日」記念シンポジウム
必ず起きる南海トラフ巨大地震 大災害に備える防災意識(11月5日 コンパルホール)
→300名参加(500名収容会場) 資料配布 平井氏ほか2名が講演 翌日地元紙に掲載される

4. 2019年大会準備状況について(新行事)

【資料4】2019徳島大会の準備状況について(内容:会場平面・立面図, 助成金交付要綱および別表)

① 助成金について

- ✓ 徳島市内に延べ100泊以上で徳島県観光協会の助成金(30万円)が受け取れる.

② LOC(地元事務局)・会場・日程・公開講演会・懇親会・巡検など

- ✓ 徳島大学の5名で運営
- ✓ 会場:徳島大学 常三島(ジョウサンジマ)キャンパス 地域連携大ホール(293席)
後半分が移動式の観覧席147席(普通の座席146席机付き)2日間で約12万円
前半分を主に使用し後半分の階段状の席は収納してポスターパネルを設置
- ✓ 日程 21日:研究会(午前)・公開講演会(午後) 22日:研究会・総会・懇親会
23日:研究会(午前)・巡検(午後)
- ✓ 公開講演会(担当 上月氏) 15時~17時半
『過去の南海地震に学び, 次の南海トラフ巨大地震に備える』
講演者は金原氏と学校防災関係者2名. ほかに石橋克彦会員に打診し承諾いただいた
- ✓ 懇親会:大学生協で予定 地元食材なども使っている実績あり. 休日可能
阿波踊り(約10万円10分程)を呼ぶ方向で進める
- ✓ 巡検:前回提案した乗船案は見直し(天候に左右されるなど)
見学場所:津波碑・歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館
学芸員(石碑・資料館の説明)の方の昼食代・謝金は支出可能として進める
人形浄瑠璃の公演(約1万円30分)をお願いする方向で進める
- ✓ 今後のスケジュール
・予算計画(巡検費用・懇親会費など)を作成し, 公開講演会の詳細, 懇親会・巡検の詳細などとともに2月の第2報で周知. 案内する各種金額は“****円程度”で可
・2018年のスケジュールだと, 発表申込み5月末, 予稿集7月末
・申込受付用メールアドレスやLOCメーリングリストなどを作成(広報)

5. 「歴史地震」の編集について(編集出版)

【資料5】『歴史地震』の編集について

① 編集出版委員会メーリングリスト作成・運用について【報告】

2つのML(原稿投稿用窓口・委員内での連絡用)を作成し運用中.

投稿された論文については基本情報のみを編集全体で把握し, 査読者の選定と各進捗状況は編集担当と委員長間で連絡. 編集担当は他の原稿の編集担当の原稿の状況および査読者は知らない状況.

② 『歴史地震』第34号編集状況【報告】

34号の編集状況 論説:13 資料:5 報告:4 要旨:47 総ページ数(予定):281

- ✓ 現在ほぼすべての原稿が査読者に回っている状況

- ✓ 1月上旬に査読意見回収→1月末に著者から改定稿→必要に応じて再査読→3月中旬を目途に著者修正→3月末受理期限目標

③ 著者が無所属の場合の、論文上の連絡先について

著者が引退などで無所属もしくは現所属と無関係の内容の場合には

- ✓ 基本的にメールアドレスは載せる(なければ載せない)
- ✓ 住所は著者本人が望むなら著者個人の全住所を掲載する
→引退等で所属が明記できず、かつ著者が自宅の全住所の記載を希望しない場合には住所は市郡レベルでも可とし(○市在住、など)、編集担当が著者の意向を確認

④ 無償送付先リストの見直しについて

現在、無償送付先の変更に関する情報を編集出版委員会としては把握していない。

現状では変更の連絡はいろいろなところが受けており、その都度幹事 ML で共有している。

無償送付先リストの整理は副会長が担当することに決定

6. ホームページの更新と将来構想について (広報)

① ホームページ更新の自動化や省力化について

更新された場合は幹事および会員向けメーリングリストに流しているのも今後も確認してほしい。自動化をとりたてて強調するつもりはないが今後のためノウハウの申し送りなどをしたい。完全な自動化というわけではない。

② 議事録ファイルの PDF 化について [報告]

これまで Word ファイルであった議事録ファイルは、閲覧の便から PDF にて公開する。

③ 歴史地震 33 号の Web 公開について [報告]

何十本も論文があるので公開のためのページを開設する作業に時間がかかった。①にも関連するが自動化できるところは進めていきたい。

④ バックナンバー問い合わせフォームの作成について [報告]

これまでバックナンバー取得希望者は公開されている総務委員長の個人メールアドレスに連絡していたが、迷惑メール対策として問い合わせフォームを作成した。フォームを利用すると総務の林・大邑に連絡が届く。なお入退会の情報などもフォームが利用できる。

入退会用にもフォームを作成し試用することに決定。必須項目などの設定も行う

⑤ Flash の廃止など将来構想について

ホームページの Flash を廃止するにあたり、ゼロからホームページを作成できるが、どのようにするか。現行のホームページの管理者との関係、刷新した場合のメンテナンス、今後の広報担当への引き継ぎなど調整が必要。広報の他に管理できる人がいるのは心強く、必要な更新をした上で現在のまま継続するという選択肢もある。一度更新の方針について相談したい。

まず現行ホームページを停止し、新しいホームページ案を作成することに決定

⑥ その他

- ・徳島大会第 1 報はホームページに掲載していないが、原稿(地震学会ニュースレター掲載用)はあるので近日中に掲載
- ・地震学会のニュースレターは 1 月 10 日頃に出る予定
- ・他の学会への案内も逐次おこなう。JpGU のカレンダーには載せる予定。

7. その他

① バックナンバー特別無料配布と在庫状況について (総務) [報告]

【資料 6】「歴史地震」「歴史地震研究会講演要旨集」のバックナンバー特別無料配布の結果報告
保管中のバックナンバーの特別無料配布を広報したところ 16 名から申し込みがあり、在庫が圧縮できた。
33 号が宛先不明で戻ってきた新たな送り先が判明したので再送付する (他にも必要に応じて送付)

② 見学会開催の提案について

主催ではなく研究会有志として開催してもらう方向で決定

③ 学会名鑑の情報更新について

【資料 7】学会名鑑申請状況

学会名鑑を更新した。アカデミックな団体であることを明示しておく必要がある。
研究会のアドレスなど更新されていないものもあるので追々対応。

④ 銀行口座の解約について (財政)

12 月 3 日に三井住友銀行口座を解約し閉鎖、ゆうちょ口座の移動届けの手続を開始。

⑤ 会費納入口座のゆうちょ銀行振替口座への一本化について (財政)

会費納入用の振替をゆうちょ銀行のみにする案を提案。口座の必要性について議論され、会費の窓口が 3 つ(現金・ゆうちょ・銀行)あると煩雑でもあることから一本化を進める方向で調整。その際、ゆうちょ銀行の振込通知(受入明細票)について、今後はインターネットのみでの確認が必要になるため、ネットでの確認と定期的な印刷が必要との意見が出された。

後日：現在の振込先が都市銀行の会員に対して振込先変更のお願いを郵送

○次回幹事会は 4 月頃開催の予定

以上

2018年度 第4回幹事会議事録

日時:2019年4月18日(木)17:00～

場所:地震予知総合研究振興会小会議室

出席者:松浦(会長), 堀川(副会長), 諸井(財政), 馬場(行事・skype), 加納(広報), 行谷(編集出版), 中村(監査), 植竹(監査), 大邑(総務)書記

8. 2019年大会の準備状況について(行事)

【資料1】2019年歴史地震研究会(徳島大会)準備状況

【資料2】2019年度歴史地震研究会(徳島大会)予算

- ✓ 行事委員メンバー(地元・プログラム編成), 開催日, 日程, 会場について確認
- ✓ 徳島大学環境防災研究センターの後援は来月における見込み
- ✓ 公開講演会タイトルは『過去の南海地震に学び, 次の南海トラフ巨大地震に備える』で決定
- ✓ チラシの作成, 広報は後援などが決定した段階で5月末完成をめざす
- ✓ 阿波おどり(30人)の実施が確定. 踊り手の駐車場, 支払い方法について確認
- ✓ 巡検はほぼ準備完了, 巡検代は4,000円に設定することで決定(去年は5,000円)
- ✓ 参加費(会員・非会員)は確定
- ✓ 懇親会はゲスト, 功績賞受賞者(1名)は招待扱いになるので考慮
- ✓ 発表申込締め切りが5月末→6月初旬の次回幹事会までにプログラムを組みプログラムを確認, 地震学会のニュースレター締め切りに間に合わせる

9. 入退会者の承認(財政)

【資料3】歴史地震研究会入退会者(2018年12月21日～2019年4月18日)

① 入退会, 所属変更について

新入会員4名(佐藤氏, 坂井氏, 牧山氏, 栗本氏) 退会者2名(岩田氏, 清水氏)

その他(所属・連絡先変更)3名(山村氏, 片桐氏, 大邑氏)

現会員数314名 ただし2018年度末退会4名予定なので310名 増減なし

→入退会者について承認 会誌最新号を送付しメンバーリングリストに追加

幹事会后(4/23)に1名入会申請があったが, 次回6月幹事会での入会承認を待つと徳島大会の発表申し込みができないため, 申込みは会員同様とすることをメール審議にて決定

② 会費の納入状況について

今年度会費納入者210名, 未納入104名(実質会員は200人?) 督促のメールを送る予定

✓ 「何年払わないと退会」といった決まりはない

✓ 以前督促をしたはずでそのファイルが存在する. 会誌を送ってない人のリストもある →堀川副会長が確認

③ 会費自動振替について

✓ 自動振替にすれば郵便振り込みの手間がかからないが会費手数料を払う必要あり

✓ 2・3年未納であれば自動退会(復帰に関しても)とするなどの会則改定が必要

✓ 会則を変えるのであれば次回の総会資料に掲載する必要あり

振込の省力化, 会則の変更については次回の幹事会(6月)の議題とし, 会則については総務と副会長で他の学会の会則なども参照して資料を用意

10. 「歴史地震」の編集について(編集出版)

【資料4】歴史地震の編集について

① 編集状況, 印刷のスケジュール

✓ 総ページ数は前号290pに対し, 今号260p程度の予定

✓ 今号論説は9本, 資料は6本に配布資料修正

✓ 論文一覧は別紙1「歴史地震34号受理(しろうな)原稿一覧」参照

✓ 7月1日に入稿, 5日に初校正出し, 26日出荷の予定

✓ 例年, 見積書で決済. 見積書を前田印刷に作成してもらい財政に送って, 請求書来てから支払

✓ 見積書の中に前年の過払い分を反映

✓ 著者校正は1回のみ実施(大幅な修正は認めない)

✓ 前田印刷入稿後は編集委員のみで校正

② 「報告」カテゴリーで投稿された論文について

✓ 現在, 報告には査読がない状態. 4ページの制限はあるが自由に載せることが可能

✓ 編集者はよほどのことが無い限り心理的にリジェクトしにくい

✓ 投稿されたものをすべて掲載するのも難しい

- ✓ 報告をすべて依頼原稿にできないか、という意見と自由に投稿できる「報告」を残すべきという意見がある
- ✓ 誹謗中傷にあたる可能性のある原稿（あるいは内容が正しくないもの）も現状では仕組み上第三者のチェックなしに掲載されてしまう
→編集出版委員会の権限で査読のある「資料」などにまわす、を提案する等の処理ができる？
- ✓ 投稿規定に誹謗中傷を禁ずるとしても、何が誹謗中傷かはできるだけ客観的に判断しなければならない
- ✓ 内容によって「査読が必要」と編集出版委員会から著者に伝える方向でどうか

編集規定の変更などで対応するのではなく、編集出版委員会の判断でカテゴリーを変えるか否か（査読を行うべきか）を判断することで決定

③ 16号以前のWeb公開について

- ✓ 16号以前のものについて出版権（地震研）は解決済みだが、掲載図についての著作権上の問題がある
- 国会図書館デジタルアーカイブのデジタル化資料送信サービスで16号以下が閲覧できる
（国会図書館のサービスを利用して閲覧可能な旨ホームページにも記載）

11. ホームページ、問い合わせフォーム、メールアドレスについて（広報）

【資料5】（広報担当資料）

① 問い合わせフォーム入退会申請のあり方について

- ✓ 入会フォーム作成については入会数も多くないことから作成せず現状のまま変更なし
- ✓ 入退会申請メールは財政が担当なので現状のまま変更なし

② 会の代表メールアドレスについて

- ✓ 問い合わせ用のメールアドレスを作成することに決定（宛先は広報、副会長、総務）

③ 広報活動およびホームページの更新と新ホームページについて

- ✓ ホームページ更新（徳島大会の第2報まで掲載）
- ✓ 地震学会ニュースレター、地震学会、JpGU ホームページに行事予定投稿
- ✓ Mushaへ新規登録、新ホームページ案を作成

④ 今後の作業

- ✓ 関連学会への案内 郵便で案内している学会について大会の内容について財政に依頼し郵送
- ✓ ホームページの更新作業（flash撤去、歴代功績賞、国会図書館について追加、研究会の沿革？）
→初期の会誌については予稿集の性格を持つものだったなど経緯を書いておくと良いのでは
- ✓ 画像などもホームページに組み込みたい

更新作業を順次進めることを了承。新ホームページへの移行時期は広報のタイミングで行う。公開前に幹事会メンバーなどでチェックもおこなう。

12. 2020年大会の開催地について（総務）

【資料6】第37回歴史地震研究会大会開催のご提案

- ✓ 2020年9月19日～22日の連休中4日間に伊賀上野での開催を提案
- ✓ 会場は仮予約済、講演者、巡検先についても候補案あり
- ✓ 地元実行委員は、盆野氏、木下氏。プラスして近隣の会員（研究者）にアドバイザー就任をお願いしたい
→加納広報委員長が行事委員として加わる方向で調整
- ✓ 連動企画で展示も行う計画（ただし展示会の図録は研究会とは別で企画）

伊賀大会を開催する方向で準備することに決定

13. 2019年功績賞について（会長）

2019年功績賞を会員1名に贈呈することを本幹事会前に開催した選考委員会で決定

→**功績賞の案内は会長から行うことを確認**

14. その他

① 徳島大会総会資料の準備について

- ✓ 総会資料は7月末に締めて8月前半作成。2週間ほど掲載
- ✓ 財政で決算と予算をつくり監査を通して、総務が印刷して持参

② 印鑑の使用と管理者について

印鑑の管理先などを議論したが、これまで通り財政が管理し、必要に応じて文書などへの押印・郵送などを行うことを確認

③ 2021年大会について

- ✓ 2021年渡島大島（案）北大西村氏に連絡し打診

○次回幹事会は6月7日開催の予定

以上

4. 第36回歴史地震研究会(2019年9月21～23日, 徳島大会)関係

第36回歴史地震研究会申し込み案内

第36回歴史地震研究会(徳島大会)のお知らせ(第3報)

第36回歴史地震研究会(徳島大会)のプログラムが決定いたしました。講演要旨送付、懇親会・巡検参加申し込みの締め切りは7月31日(水)です。申込先・送付先は、8. 懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください。

1. 場所

徳島大学地域連携プラザ地域連携大ホール

徳島市南常三島町1丁目1番地(徳島駅からバスで約10分)

<http://www.tokushima-u.ac.jp/visitor/shisetsuriyouannai.html> (地域連携大ホール)

<http://www.tokushima-u.ac.jp/access/> (アクセスマップ、常三島地区)

2. 日程および参加費

2019年9月21日(土)～23日(月・祝)の3日間

21日:研究会(午前)・公開講演会(15時～17時30分)

22日:研究会・総会・懇親会

23日:研究会(午前)・巡検(午後)

公開講演会は無料です(会員, 非会員とも)。研究発表会は大会参加費として会員 2,000円, 非会員 4,000円を徴収します。

懇親会(会費 5,000円程度)は徳島大学生協第一食堂で開催します。有名連による阿波踊りを予定しています。

巡検の参加費は4,000円程度です(昼食・保険含)。

懇親会と巡検は7月31日(水)までに申し込みをしてください。申込先は8. 懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください。

3. 講演要旨について

発表1件につきA4サイズ1ページ(厳守), カメラレディ(そのまま印刷可能な)原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット(Wordファイル)を書き換える形で原稿を作成のうえ, 原則としてWordファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7月31日(火)必着といたします。原稿の送付先は8. 懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください。

要旨の標準フォーマット <http://www.histeq.jp/doc/AbstractFormat.doc>

4. 発表について

口頭発表では, 原則として各自でご用意いただいたPCを接続していただきますが, Windows1台, Mac1台をこちらで準備しております。ポスター発表で使用するボードの貼付面のサイズは, 高さ176cm×幅94cmです。これに収まるように作成ください。縦長ですのご注意ください。大会2日目の朝から3日目の昼までポスターの掲示が可能です。

5. 公開講演会

タイトル:『過去の南海地震に学び, 次の南海トラフ巨大地震に備える』

講演:

○金原祐樹氏(徳島県立文書館)

『南海地震の記録を遺すー徳島県立文書館の活動ー』

○学校防災関係者(2件): 牟岐町防災サークル, 美波町立由岐小学校

『小中学生による歴史地震を活用した地域防災活動』

○石橋克彦氏(神戸大学名誉教授)

『南海トラフ巨大地震とは何か, どう備えるか』

参加費等: 公開講演会は, 入場無料, 事前申し込み不要, 当日先着順, 定員200名です。

6. 懇親会

日時: 9月22日(日)18:30～20:30(終了予定)

場所: 徳島大学生協第一食堂

参加費: 5,000円

参加申し込みは7月31日(水)まで。申込先は8. 懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください。

7. 巡検

行程:

12:30 徳島大学出発, 16:30 徳島空港・17:00 徳島とくとくターミナル・17:30 徳島大学・徳島駅解散(バス移動)

昼食, 松茂町指定有形文化財 敬諭碑(けいゆひ), 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館(資料館では人形浄瑠璃講演を見学します)

参加費: 4,000円程度(昼食・保険含)

定員:50名(先着順に受付,会員及び研究発表会参加者を優先します)

参加申し込みは7月31日(水)まで.申込先は8.懇親会・巡検参加申し込み先,講演要旨送付先をご参照ください. 保険加入のため,氏名・住所・生年月日・電話番号(携帯可)をお知らせください.

8. 懇親会・巡検参加申し込み先,講演要旨送付先

電子メールの場合:

rekishi2019@histeq.jp

第36回歴史地震研究会行事委員会:馬場俊孝(委員長),井若和久,小松原琢,松崎伸一,室谷智子

手紙の場合:

〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町2丁目1番地

徳島大学大学院社会産業理工学研究部

研究会行事委員会 馬場俊孝 宛

5. 各種お知らせ・資料

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

会誌『歴史地震』では,通年,投稿を受け付けておりますが,2020年7月末発行予定の次号(第35号)に掲載希望の方は,2019年11月30日必着でご投稿をお願いいたします.なお,投稿を受付済みで未掲載の記事は,次号への掲載希望として取り扱っております.

1. 募集原稿の内容

『歴史地震』は,歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し,記事の種別として,論説,資料,講演要旨,報告,紹介を取り扱います.頁数の上限は,論説と資料は20頁,講演要旨は1頁,報告と紹介は4頁ですが,超過が認められる場合もあります.編集出版委員会では,第35号を次の記事を中心に構成する方針です.

- (1) 2019年9月の第36回歴史地震研究会での発表内容に関連する記事
- (2) 昨年までの研究会で発表された内容,あるいはそのほかのオリジナルな内容に関する記事
- (3) 2019年9月の第36回歴史地震研究会の講演要旨集に掲載された講演要旨

これらのうち,(1),(2)の投稿をお待ちしています.

2. 編集体制と編集方針

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております.

- (1) 編集出版委員会で編集作業を進めます.
- (2) 論説および資料については,査読制を取り入れていますので,基準を満たさない記事は掲載できません.少なくとも1名の査読者が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし,不備を指摘・訂正していただきます.
- (3) 原稿を作成する標準的な体裁『歴史地震』の標準書式」を定めています.最新の標準書式に従ったWordファイルが歴史地震研究会のウェブサイト(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>)からダウンロードできますので,このファイルを書き換える形で原稿を準備されることをお奨めします.
- (4) 電子ファイルでの投稿を奨励します.少なくとも本文は電子ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと,編集作業が効率的に行えますので,ご協力をお願いいたします.
- (5) 「投稿シート」(次頁に記載)に必要な事項をご記入のうえ,このシートとともにご投稿ください.最新の様式の「投稿シート」は上記ウェブサイトからもダウンロードできます.
- (6) 最終原稿は,印刷物としての『歴史地震』のほか,PDF版が歴史地震研究会のウェブサイトでオンラインジャーナルとしても一般に公開されます.原則として,印刷物はモノクロで刊行します.
- (7) 掲載料の頁単価は,モノクロページが1,500円程度,口絵のカラーページが23,000円程度です.ただし,投稿者が会員の場合は,1.に示した頁数までのモノクロページについては,無料です.
- (8) その他詳細は,編集規定をご覧ください.

3. 投稿先

・電子メールでご投稿の場合:histeq@histeq.jp

※ 添付ファイルが5MB以上の大きさになる場合には,CD-RまたはUSBメモリに入れてご郵送ください.

※ 原稿を受領した場合は,必ずその旨の返信をしております. 一週間以上経過しても受領の連絡がない場合には,何らかの原因でファイルを受け取ることができていない可能性がありますので,お手数ですが,上記アドレスまで再度お問い合わせください.

・郵送でご投稿の場合:〒101-0064 千代田区猿楽町1-5-18 千代田ビル8F

地震予知総合研究振興会内歴史地震研究会編集出版委員会 宛

※ 郵送で投稿する場合は,確認のため,上記アドレスにも連絡して下さい.

・ご投稿の際には,忘れずに「投稿シート」をご提出ください.

『歴史地震』 投稿シート

ver.201604

<基本情報>

記事の種類	論説・資料・報告・紹介 ※ 論説および資料の場合は、査読の対象となります。	
記事タイトル		
著者		
投稿者(連絡責任者)	氏名	
	所属	
	郵便番号・住所	〒
	電話番号	
	電子メールアドレス	

<質問・チェック事項>

記事について

(1) 記事の内容は過去の歴史地震研究会で発表した内容ですか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、発表年および開催場所をご記入ください	
※ 発表済の場合は、編集出版委員会の判断で、通常2名以上の査読者を1名とすることがあります(論説、資料の場合)。	

体裁・形式について

(3) 原稿は、歴史地震研究会ウェブサイトからダウンロードした標準書式のWordファイルを書き換えて作成したものですか？	はい・いいえ
<p>・「いいえ」の場合、以下の標準書式に従っていることを十分に確認してください。標準書式からのずれが大きい原稿は、編集出版作業に手間がかかりすぎるため、受け付けられないことがあります。</p> <p><input type="checkbox"/> A4 サイズ, 左右の余白各2cm, 上下の余白各2.5cm</p> <p><input type="checkbox"/> フォントは和文が明朝体, 英文がTimes</p> <p><input type="checkbox"/> 文字サイズは, 和文タイトル16 pt , 英文タイトル12pt, 所属・著者名10.5pt, 英文要旨10.5pt.</p> <p><input type="checkbox"/> 著者の連絡先は和文の所属に脚注として加える。</p> <p><input type="checkbox"/> キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入する。</p> <p><input type="checkbox"/> キーワードの下でセクションを切り替え, 本文は2 段組とする。段の横幅は8cm, 段の間は7mm 程度, 1 行22 文字, 1 ページ45 行とする。</p> <p><input type="checkbox"/> 本文の文字サイズはすべて10.5pt .</p>	
(4) 記事の種類が「論説」あるいは「資料」の場合、英文の表題, 英文の著者名・所属, 英文要旨(200 語程度), 英文キーワードを備えていますか？	はい・いいえ・該当しない
(5) 句読点は「,」と「.」で統一されていますか？ ※ されていない場合は検索・置換ツールを使って統一してください	はい・いいえ

(6) 本文中で和暦と西暦が混同されるおそれはないですか？ ※ 歴史地震研究会では、混同を避けるため、和暦には漢数字(宝永四年十月四日など)、西暦にはアラビア数字(1707年10月28日など)を使うことを推奨しています。	ない・ある
(7) 西暦1582年以前の西暦は(グレゴリオ暦ではなく)ユリウス暦を用いていますか？	はい・いいえ・該当しない
・「いいえ」の場合、使っている暦の種類が明記されていますか？	はい・いいえ

図・写真について

(8) 既公表の文献(自分で公表したものも含む)や機関・個人が所蔵している史料から転載した図や写真はありますか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、出版社・学会や機関、個人に転載許可をとっていますか？	はい・いいえ
(9) 製本(印刷)版でカラー図・写真の掲載を希望しますか？	はい・検討中・いいえ
・「はい」もしくは「検討中」の場合、希望する図・写真の番号をご記入ください	
<p>※ カラー図を希望された場合、本文中にはモノクロの図が掲載され、そのカラー版が口絵として巻頭に再掲される格好となります。モノクロとカラーで図の内容・サイズを変更することはできません。なお、カラー頁料金が追加の掲載料が発生します。</p> <p>※ 歴史地震研究会ウェブサイトで公開されるオンラインジャーナル(PDF版)では、希望の有無に関わらず、フルカラーとなります。</p>	
(10) カラー掲載しない図について、モノクロ印刷に必要な情報が判読・識別可能ですか？	はい・いいえ・図はない